

2020年3月期 第3四半期 連結決算ハイライト (IFRS)

■減収減益。			
◇収益	5,311 億円	1.1%	減収
◇営業活動に係る利益	187 億円	13.6%	減益
◇税引前四半期利益	179 億円	14.5%	減益
◇親会社の所有者に帰属する四半期利益	94 億円	20.1%	減益
■通期見通しを下方修正。			
(前期比では、税引前利益は4.0%減益、親会社の所有者に帰属する当期利益は9.7%減益の見通し。)			
■期末配当予想は30円にて据え置き。(年間配当予想は60円)			

損益の状況						
(単位:億円)	2019/3期 第3四半期	2020/3期 第3四半期	前年同期比		2020/3期 通期	
			増減額	増減率	見通し	進捗率
収益	5,369	5,311	△ 58	△ 1.1%	7,100	74.8%
売上総利益	793	798	5	0.6%	-	-
販売費・一般管理費	△ 585	△ 611	△ 26	-	-	-
その他の収益・費用	9	1	△ 8	△ 94.2%	-	-
営業活動に係る利益	217	187	△ 29	△ 13.6%	290	64.6%
利息収支	△ 17	△ 19	△ 2	-	-	-
受取配当金	7	7	△ 0	-	-	-
その他の金融収益・費用	△ 1	△ 1	△ 0	-	-	-
金融収益・費用	△ 11	△ 14	△ 3	-	-	-
持分法による投資損益	3	5	2	53.4%	-	-
税引前四半期利益	209	179	△ 30	△ 14.5%	280	63.8%
法人所得税費用	△ 66	△ 59	7	-	-	-
四半期利益	143	119	△ 24	△ 16.6%	-	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	118	94	△ 24	△ 20.1%	150	62.8%
1株当たり四半期利益 (円)	140.60	112.70	△ 27.90	-	179.05	-

【収益】
食料セグメント等では増収も、鉄鋼・素材・プラントセグメント、電子・デバイスセグメントで減収となり、全体で58億円の減収。

【営業活動に係る利益】
電子・デバイスセグメントでは微増も、全体では29億円の減益。

【税引前四半期利益】
営業活動に係る利益の減少により、30億円の減益。

【親会社の所有者に帰属する四半期利益】
税引前四半期利益の減少に伴い、24億円の減益。

セグメント情報						
(単位:億円)	収益			営業活動に係る利益		
	2019/3期 第3四半期	2020/3期 第3四半期	前年同期比 増減	2019/3期 第3四半期	2020/3期 第3四半期	前年同期比 増減
電子・デバイス	1,878	1,857	△ 21	124	125	1
食料	1,837	1,912	75	33	19	△ 14
鉄鋼・素材・プラント	1,065	954	△ 110	32	18	△ 14
車両・航空	496	499	3	21	18	△ 3
報告セグメント合計	5,276	5,223	△ 53	210	180	△ 30
その他(含む調整額)	94	89	△ 5	7	7	0
総合計	5,369	5,311	△ 58	217	187	△ 29

【電子・デバイス】 減収増益
ICTソリューション事業は、製造業、流通業向けを中心としたサーバー、ストレージに加え、仮想化とセキュリティ分野におけるIT投資需要もあり、好調に推移。モバイル事業は、駆け込み需要の反動があり、第3四半期に入りスローダウン。電子機器事業は好調に推移するも、前期の連結子会社化による一時的業績効果がなくなり減益。

【食料】 増収減益
食糧事業は、水産飼料取引およびペット関連取引等の不調により苦戦。食品事業は、農産加工品取引の安定した需要に支えられ堅調に推移。畜産事業は、TAG(日米物品貿易協定)発効前に国内取引が一時鈍化したものの全畜種で堅調に推移。

【鉄鋼・素材・プラント】 減収減益
エネルギー事業は国内取引を中心に順調に推移、化学品事業も一般化学品および医薬品等を中心に堅調に推移。鉄鋼事業は、世界的な市況低迷の影響を受け、国内、輸出共に苦戦、油井管事業も市場在庫の過剰感もありスローダウン。工作機械・産業機械事業は景況感悪化による製造業の投資抑制を受け苦戦、プラントインフラ事業も中東向け取引の停止により減益。

【車両・航空】 増収減益
航空・宇宙事業は、堅調に推移。車両・車載部品事業は、全般には堅調ながらも中東向け取引の停止により減益。

資産・負債及び純資産の状況				
(単位:億円)	2019/3末	2019/12末	前期末比	
			増減	増減率
総資産	5,495	5,716	221	4.0%
グロス有利子負債(注1)	1,395	1,568	173	12.4%
ネット有利子負債	500	764	264	52.9%
自己資本(注2)	1,252	1,304	51	4.1%
内、利益剰余金	607	649	41	6.8%
内、その他の資本の構成要素合計	112	121	9	8.3%
自己資本比率(注3)	22.8%	22.8%	横這い	-
ネットDER(注4)	0.40倍	0.59倍	0.19pt上昇	-

【総資産】
棚卸資産及び有形固定資産の増加等により、221億円の増加。

【有利子負債】
ネット有利子負債は264億円の増加。(内、IFRS第16号「リース」適用による影響等により、169億円の増加。)

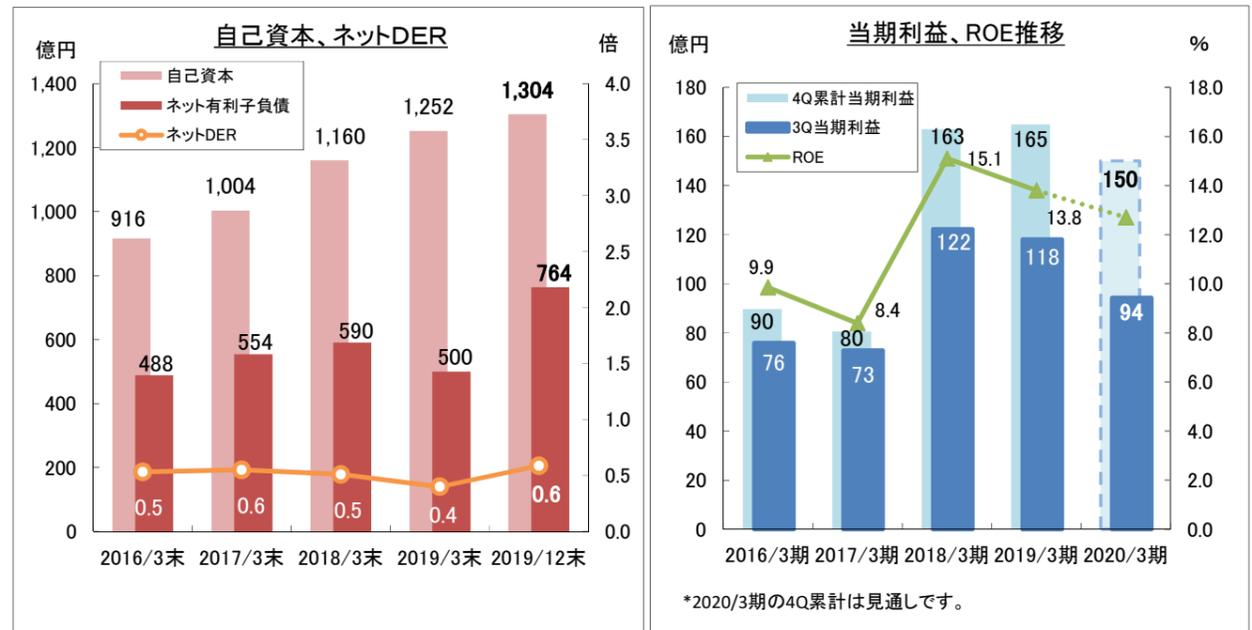
【自己資本】
利益剰余金の積み上げ等により、51億円増加。

自己資本比率は22.8%。
ネットDERは0.59倍の水準。
(IFRS第16号「リース」適用前ベースでは、0.45倍の水準。)

(注1)2020年3月期よりIFRS第16号「リース」が強制適用となったことに伴い期首に約169億円のリース負債を認識したため、増加しております。
(注2)自己資本は、資本の「親会社の所有者に帰属する持分」(注3)自己資本比率=自己資本/総資産
(注4)ネットDER=ネット有利子負債/自己資本

キャッシュ・フローの状況			配当の状況	
(単位:億円)	2019/3期 第3四半期	2020/3期 第3四半期	2019/3期	2020/3期 (予想)
営業活動によるCF	51	132	1株当たり 25 円	1株当たり 35 円
投資活動によるCF	△ 46	△ 88	1株当たり 35 円	1株当たり 60 円
フリーキャッシュフロー	5	44	1株当たり 30 円	1株当たり 30 円
財務活動によるCF	10	△ 133	1株当たり 30 円	1株当たり 60 円
現金・現金同等物の増減	15	△ 89	1株当たり 60 円	1株当たり 60 円

(注)2020年3月期よりIFRS第16号「リース」が強制適用となったことに伴い、営業活動によるCFは適用前より41億円の増加、財務活動によるCFは同じく41億円の減少となっております。



*本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
*記載の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値が異なる場合があります。